湯日川水系河川整備計画

（原案）

令和４年１月

静　岡　県

目次

第 1　流域及び河川の概要 1
1　流域の概要 1
(1)　流域の地形・地質 2
(2)　流域の気候 3
(3)　土地利用 5
(4)　産業・観光 7
(5)　主要交通 12
(6)　流域の歴史・文化 14
(7)　治水事業の沿革 16
2　河川の概要 19
(1)　上流部(起点～寺沢合流点) 19
(2)　中流部 20
(3)　下流部・河口部(感潮区間, 岩留橋～河口) 21
第 2　流域の現状と課題 22
1　治水に関する現状と課題 22
(1)　洪水対策 22
(2)　津波対策 22
2　河川の水利用に関する現状と課題 23
3　河川環境に関する現状と課題 24
(1)　水質 24
(2)　動植物の生息・生育状況 25
4　河川と地域の関わりに関する現状と課題 30
第 3　河川整備計画の目標に関する事項 31
1　河川整備の基本理念と基本方針 31
2　計画対象区間 32
3　計画対象期間 32
4　洪水等による災害の発生防止又は軽減に関する目標 32
5　河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標 33
6　河川環境の整備と保全に関する目標 33
7　河川と地域との関わりに関する目標 33
第 4　河川整備の実施に関する事項 34
1　河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに河川工事の施行により設置される河川管理施設等の機能の概要 34

(1)　河川工事の目的 34
(2)　河川工事の施行場所.....34
(3)　主要工事の概要 35
2　河川の維持の目的、種類及び施行の場所.....37
(1)　河川の維持の目的 37
(2)　河川の維持の種類 37
3　その他の河川整備を総合的に行うために必要な事項 39
(1)　総合的な被害軽減対策.....39
(2)　流域における取組への支援等.....40

第1 流域及び河川の概要

1 流域の概要

湯日川は、流域面積約 25.8km²、流路延長約 15.9km の二級河川である。その源を静岡県島田市(旧 榛原郡金谷町)の牧之原台地に発し、準用河川湯日谷川を経て湯日川となり、途中、長池川、沢川、出水川、清水川などの準用河川と合流しながら、台地の合間の谷底平野を東向きに流れ、大井川の氾濫平野に入り南東に向きを変え、榛原郡吉田町の市街地を流下し吉田漁港を介し駿河湾へ注いでいる。

流域の地形は、上流部の大部分は台地であり、中流部から下流部にかけて大井川の扇状地からなる低平地が広がっている。

湯日川流域は、島田市と吉田町に位置しており、下流部では国道 150 号、中流部では吉田 IC を伴う東名高速道路、上流部では東海道新幹線が横切り、志太榛原地域の主要幹線が集中している。

近年まで下流域で養鰻が盛んであり、養鰻池が数多く存在したが、現在はそのほとんどが廃業し、埋め立てられ、市街化している。河口に位置する吉田漁港は県内有数のシラスの漁獲高を誇る。

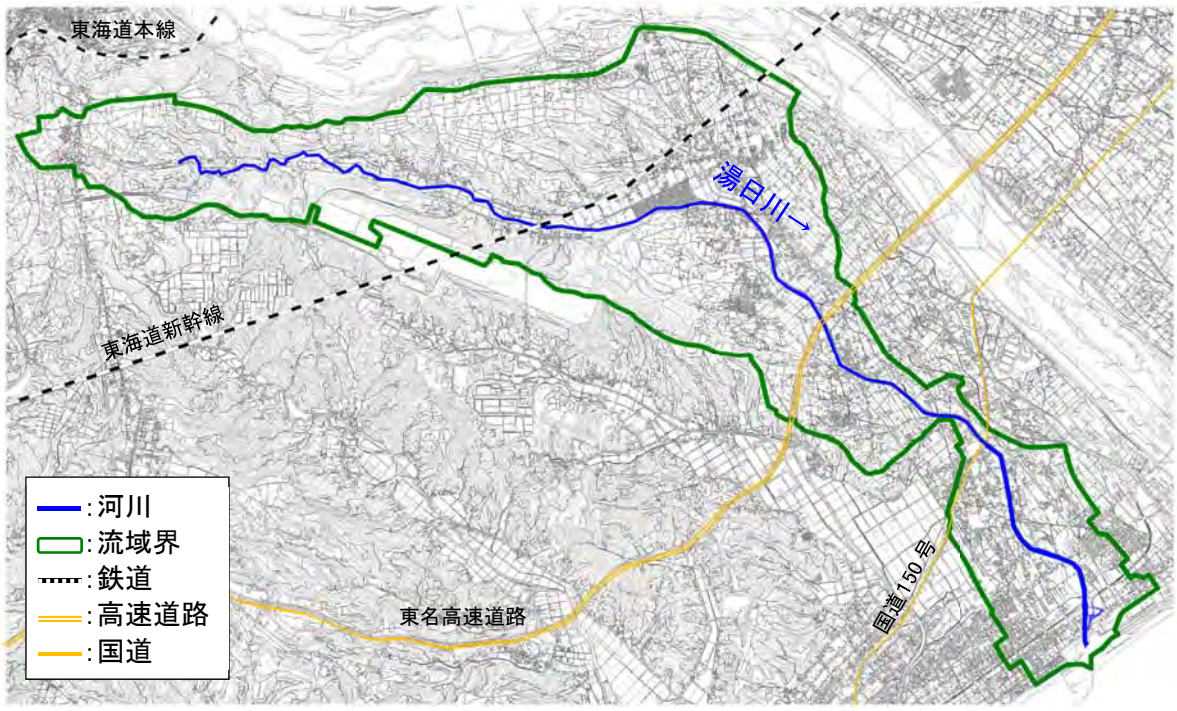


図 1-1 湯日川流域位置図

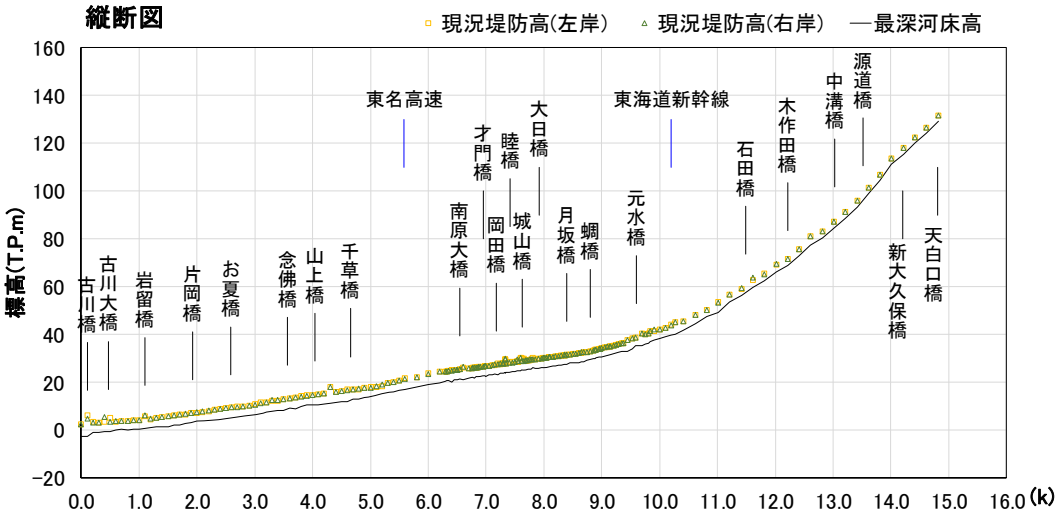


図 1-2 湯日川の河床縦断図

(1) 流域の地形・地質

流域内には、富士山静岡空港周辺から吉田町の能満寺山公園・展望台小山城付近にかけて、「坂部原の活褶曲」と呼ばれる特異な地形が形成されている。また、この先端部の吉田町神戸付近は、北東-南西に軸を持った「下撓曲(下方にたわんでいること)」と呼ばれている地形となっている。

湯日川左岸は大井川の旧河道が広がっている。右岸は段丘や山地であり、湯日川はこの段丘や山地の裾野を流れている。

流域の地質は、上流部は海成層泥岩、泥岩砂岩互層、海成層 砂岩泥岩互層、中流部は段丘堆積物、扇状地・崖錐堆積、下流部は海岸・砂丘堆積物により形成されている。

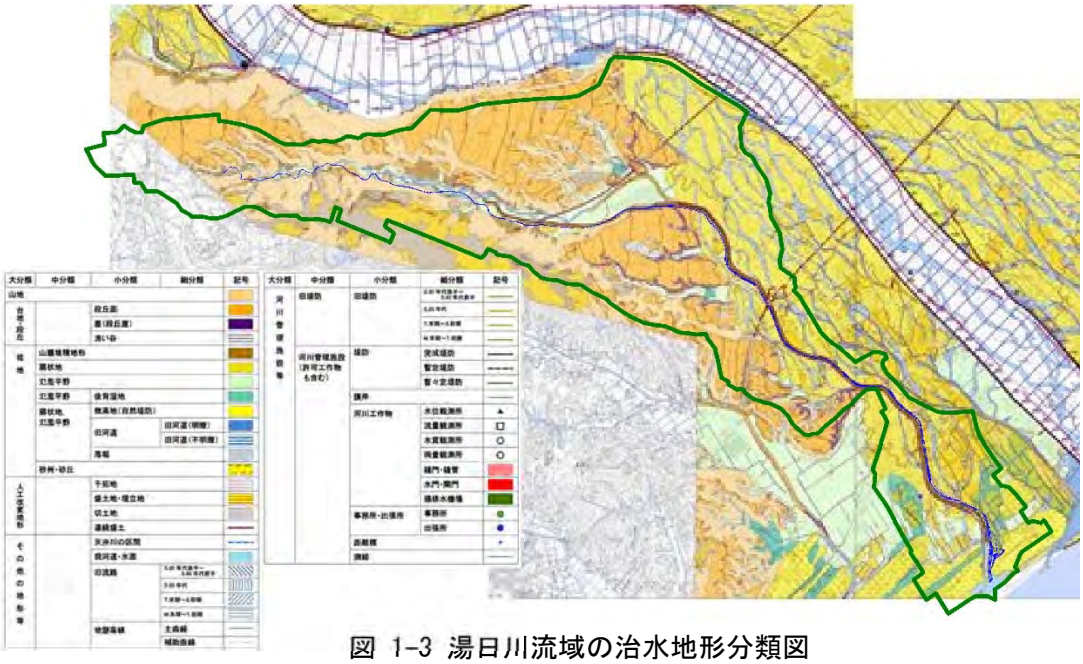
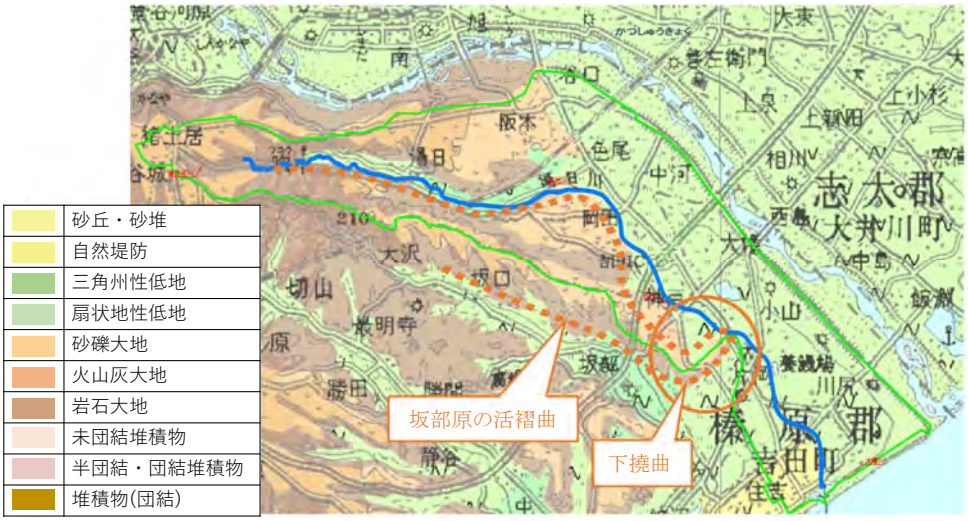


図 1-3 湯日川流域の治水地形分類図

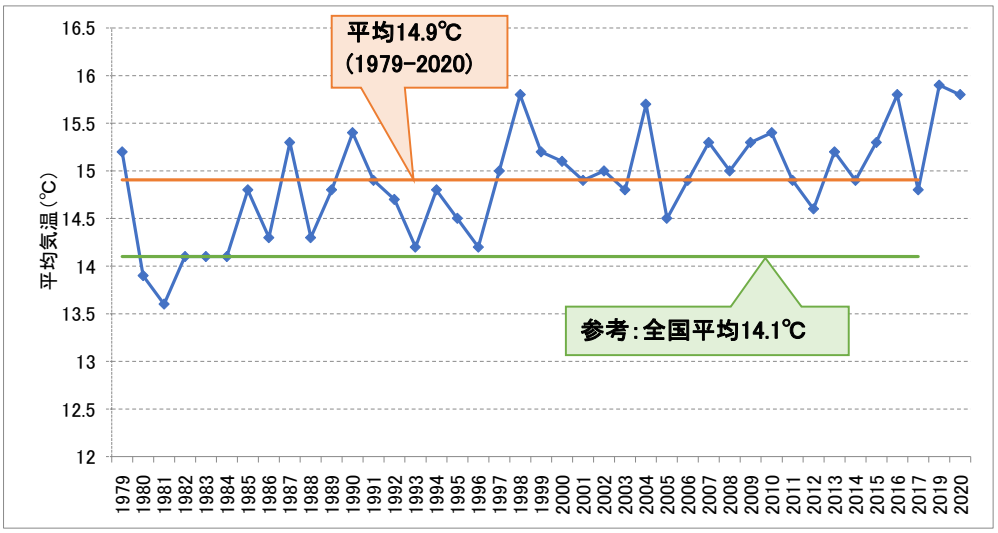


出典:土地分類基本調査　地形分類図 1/5 万、1981 年

図 1-4 湯日川流域の地形分類図

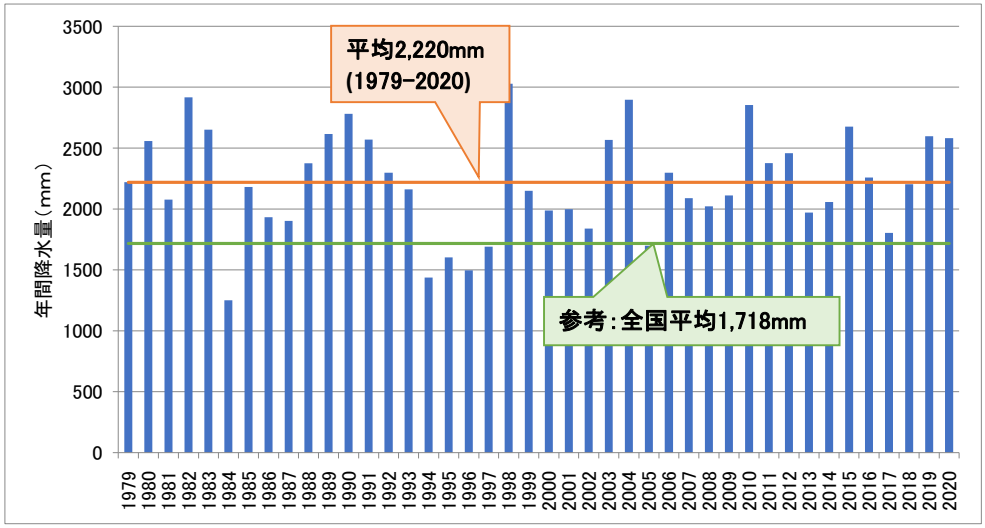
(2) 流域の気候

湯日川流域の気候は、静岡県の大部分の地域と同様に極めて温暖で、夏季は高温多湿、冬季は温暖少雨の表日本気候(太平洋型気候区)に属している。近傍の観測点における年平均気温(1979-2020)は、菊川牧之原で 14.9℃と、全国平均 14.1℃と比較して高く、温暖な気候である。近傍の観測点における年平均降水量(1979-2020)は、菊川牧之原で 2,220mm と、全国平均 1,718mm と比較して多い。



出典:気象庁気象統計情報

図 1-5　年間平均気温の推移（菊川牧之原）



出典:気象庁気象統計情報

図 1-6　年間平均降水量の推移（菊川牧之原）

〈平均値の出典〉
全国の平均気温　:全国の気象台のうち 82 地点(ただし、富士山、昭和(南極)を除く)の 1981～2010 年までの平均値
全国の平均降水量　:1986～2018 年の平均値、国土交通省土地・水源局水資源部水資源部「平成 30 年版日本の水」

出典:気象庁 HP

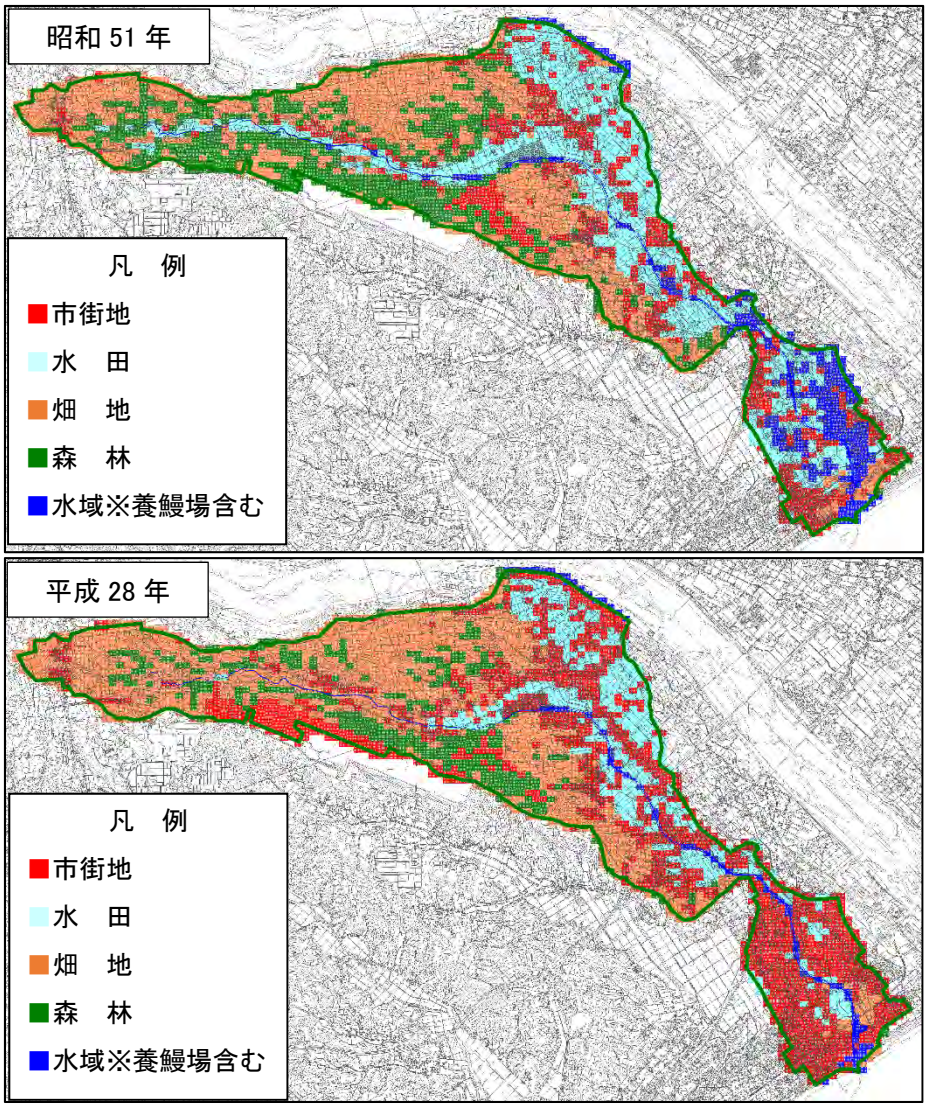
図 1-7　気象観測所位置図

(3) 土地利用

湯日川流域では、下流域や幹線道路沿いは主に市街地として、中上流部の大井川の扇状地や丘陵地などは水田や畑地として利用されている。

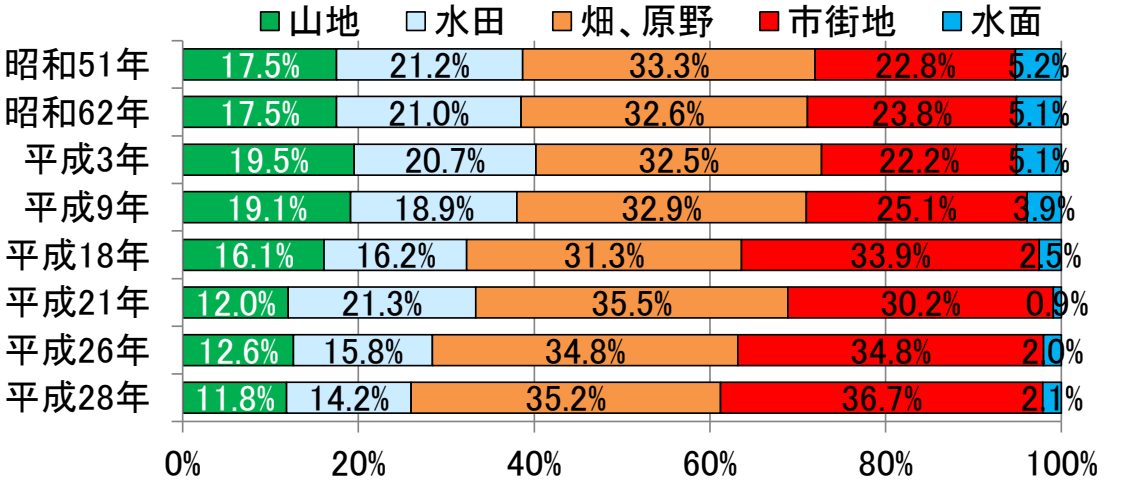
土地利用の現況は、流域に占める割合が、市街地が 37%、水田が 14%、畑地等が 35%となっている。近年、丘陵地を中心に広がる畑地等に変化は少ないものの、富士山静岡空港(平成 21 年 6 月開港)や幹線道路周辺、下流域に多くあった養鰻池周辺で市街化が進んでいる。

今後、交通網の整備等に伴って、さらなる市街化の進展が予想される。



出典:国土数値情報　土地利用細分メッシュデータ(国土交通省国土政策局情報化)

図 1-8 土地利用区分の変化

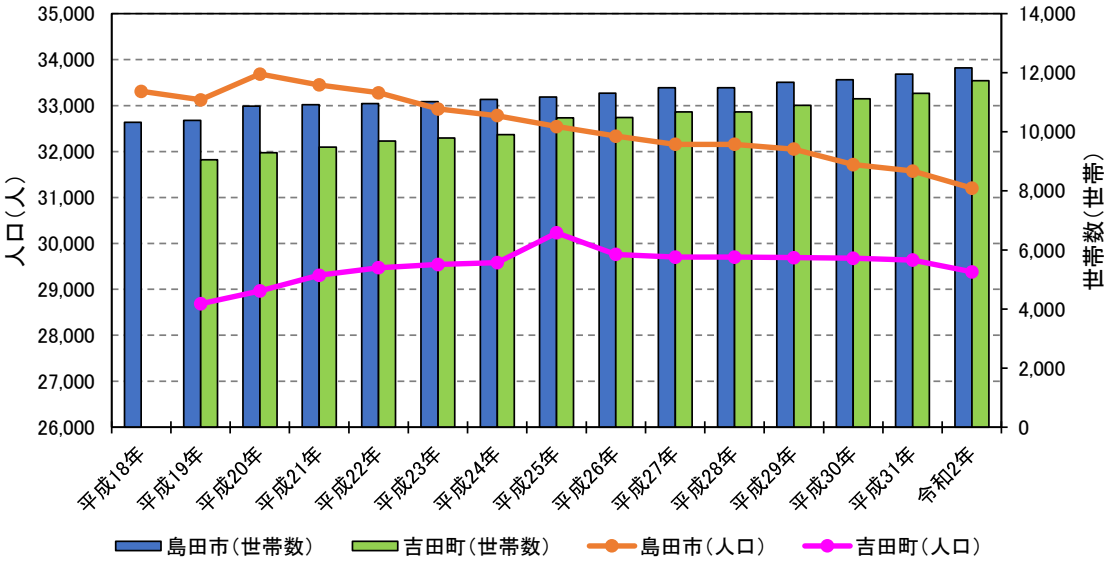


出典：国土数値情報　土地利用細分メッシュデータ（国土交通省国土政策局情報化）

図 1-9　土地利用区分の面積割合の変遷

流域内に位置する島田市（初倉地区、金谷地区）では、人口は減少傾向にあり、世帯数は微増傾向にある。

また、吉田町では、人口は横ばい傾向、世帯数は増加傾向の状況にある。世帯数が増加しているのは、企業の工場群が立地したことなどが要因と考えられる。



出典：島田市 HP，吉田町 HP

図 1-10 人口の推移